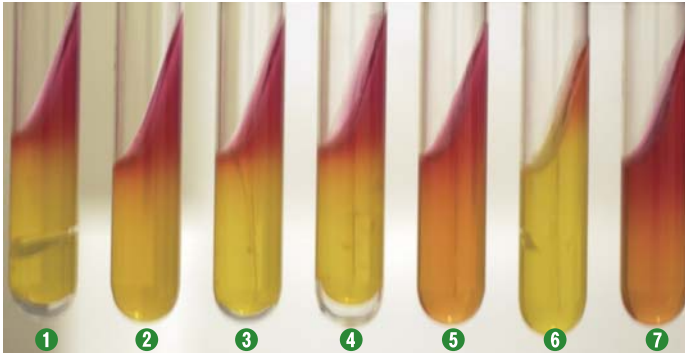


極東 CLIG寒天生培地

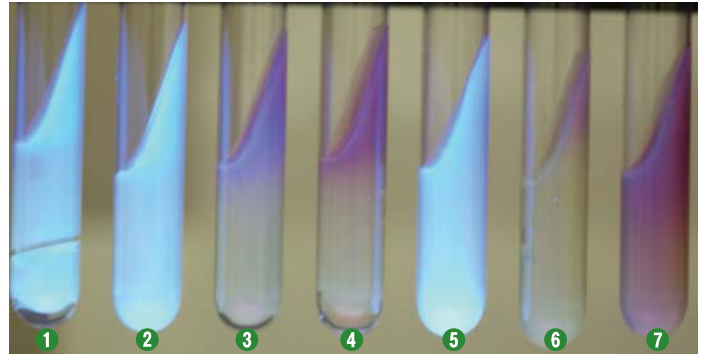
本培地は、厚生省衛食第 207 号、衛乳第 199 号（1997）に記載された培地です。複数の腸内細菌確認用培地を必要とせず、*Escherichia coli* の確認および、腸管出血性大腸菌（Enterohemorrhagic *E. coli* : EHEC）O157 の鑑別が可能です。

高層部にて乳糖、斜面部にてセロビオースからの酸産生が確認できます。また、365 nm の紫外線を照射し、腸管出血性大腸菌 O157 との鑑別を行います。通常の *E. coli* は、MUG（4-メチルウンベリフェリル-β-D-グルクロニド）を加水分解する β-グルクロニダーゼ陽性のため、紫外線照射下で青色蛍光を示しますが、腸管出血性大腸菌 O157 は β-グルクロニダーゼ陰性のため、青色蛍光を示しません。

通常光照明



紫外線照射時



〈左から〉

① *Escherichia coli*

② *Escherichia coli*

③ *Escherichia coli* O111

④ *Escherichia coli* O157

⑤ *Escherichia coli* O121

⑥ *Escherichia hermannii*

⑦ *Proteus mirabilis*

培地組成（1,000 mL 当たり）

カゼインペプトン	7.5 g	乳糖	1.0 g
肉ペプトン	2.5 g	セロビオース	10.0 g
塩化ナトリウム	5.0 g	MUG	0.02 g
トリプトファン	0.1 g	寒天	14.9 g
フェノールレッド	0.025 g		pH7.4±0.1

※典型的な組成を示しています。

製品コード

50 本（統一商品コード No. 551-07521-2）

有効期間

6 ヶ月

用法

分離したコロニーを白金線で本培地の高層部に穿刺、斜面部に画線し、35~37℃で18~24時間、好気条件下にて培養*します。培養後は、高層部、斜面部の色調を確認します。酸の産生が陽性ならば、培地色調は黄変します。次に、365 nm 紫外線照射下で青色蛍光の有無を確認します。また、斜面部に発育した菌を用いて、インドールスポットテスト¹⁾やチトクロームオキシダーゼテスト²⁾等の実施も可能です。

*培養時は密栓状態にしないで下さい。

1) スポットインドール試薬 15 mL×1 (統一商品コード 551-63820-2) が使用できます。

自家調製する場合は、濃塩酸 2 mL と精製水 18 mL を混合したのち、パラジメチルアミノシナナムアルデヒド 0.2 g を加えて溶解します。

2) チトクロームオキシダーゼテスト：オキシダーゼ綿棒等により実施します。

判定

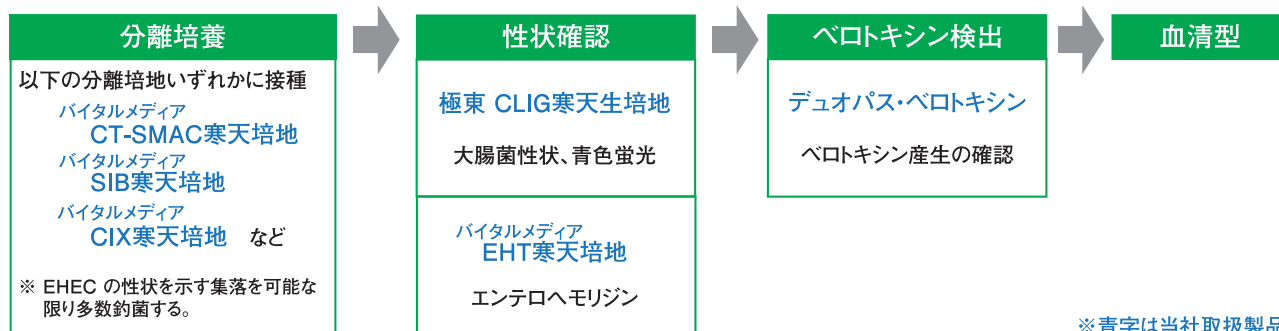
		EHEC O157:H7/-	通常の <i>E. coli</i>	<i>E. hermannii</i>
酸産生	乳糖 (高層部)	+	+	+
	セロビオース (斜面部) * ¹	-	-	+
β-グルクロニダーゼ (MUG) * ²		-	+	-
インドール産生* ³		+	+	+
チトクロームオキシダーゼ		-	-	-

*1: 抗O157血清に交差反応を示す *E. hermannii* の鑑別除外に有用です。

*2: 365 nmの紫外線照射による

*3: インドールスポットテストによる

使用例 (EHEC O157:H7/-の培養検査フロー)



使用上および取扱い上の注意 ※以下の注意をよく読んでからご使用下さい

- 微生物の取扱いに習熟した人の指導の下に、バイオハザード対策を実施した上で使用して下さい。
- 試験管に破損が認められるものは使用しないで下さい。
- 有効期限切れの製品は使用しないで下さい。
- 培地の保存は必ず冷暗所 (4~8℃) で、凍結ならびに乾燥しないようにして下さい。
- 冷蔵庫からの頻回な出し入れは性能の劣化を招きますので、極力お避け下さい。
- 本培地を使用する場合は、室温に戻してからご使用下さい。
- 使用済みの培地は 121℃、30分以上高圧蒸気滅菌を行い、速やかに廃棄して下さい。
- 廃棄する場合は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、水質汚濁防止法等の規定に従って処理して下さい。